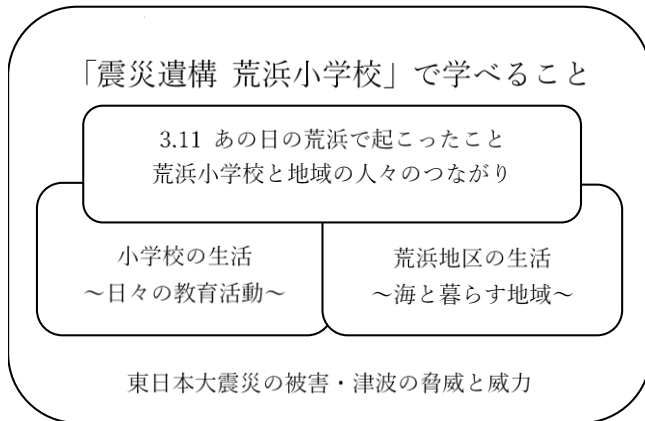
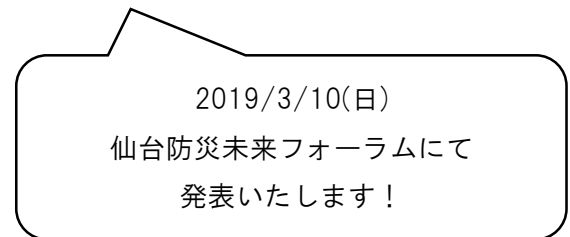


わたしの防災から、わたしたちの防災へ。 教師のための 震災遺構を通じた「いのち」と「暮らし」の学びの手引き



[企画・制作] 国立大学法人 宮城教育大学

[協力] 仙台市・仙台市教育委員会



詳しくは <http://drr.miyakyo-u.ac.jp/>

2011年3月11日から8年が経過し、東日本大震災を知らない子供たちが就学期を迎えています。地震や津波による被害を繰り返さないためにも、震災の記憶を風化させないように、経験を語り継いでいく必要があります。

宮城教育大学教職大学院では、3.11以後の防災教育を様々な観点から考えています。その一環として、2018年6月「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」を訪問し、その活用方法を検討しました。

荒浜小学校では、被災した校舎をありのままに保存し、震災や地域に関する貴重な資料とともに公開しています。校舎を見学し、荒浜にゆかりのある職員の声に耳を傾けることで津波の威力を想像し、非常時への備えについて教室では得られない学びが可能になります。

また、震災前の荒浜地区に関する展示を前に、美しい砂浜に面したこの地域の過去に思いを寄せることで、当時の日常生活の尊さが実感させられます。当たり前前の日常は、「いのち」と「暮らし」を守ろうとする様々な人の思いや取り組みがあっはじめて成り立つものです。そんなことへの気付きを促す展示は、社会と関わる一人一人の生き方を考えたり、ともに生きていく集団としての学級や学年のあり方を考えたりするために格好の教材です。

しかし、仙台市内の学校現場においても、荒浜小学校の活用があまり進んでいません。また、修学旅行や校外学習で訪れる県外の子供たちにとっても、ただ「いのち」に関わる被害や対策を実感するのみならず、心に迫る「暮らし」の側面に気づき、より深い学びを目指したいと考えました。

子供や地域に対する様々な人の思いに<気付き>、それを他人事ではなく我が事として<受け止め>、更に地域が一体となって次の世代へいのちのバトンを<つなぐ> - - - そんな営みに少しでも役立てていただきたいと考え、手引書を制作しました。

防災教育副読本教材などと併せてご利用いただくことを想定した指導計画や、荒浜小学校の職員の皆様にもご意見を伺いながら制作したワークシートは、3月10日以降当センターHP 荒浜小特設ページからダウンロード可能です。

震災の記憶を手がかりに、「いのち」や「暮らし」についての深い学びを経験した子供たちが、心も体もより一層たくましく育ててほしいと願っています。